

# パリコレ、エミー賞レッドカーペットから1人の女性のウェディングまで サロンワークも冠婚葬祭も、本来の美容師の姿を自ら体現 生涯活躍できる人材の育成に奔走する女性

## プロフィール

長谷川清美(はせがわ きよみ)

株式会社マリエ 代表取締役

一般社団法人 Mariage Grande Academia 理事

一般社団法人全日本ブライダル協会 理事

## 経歴:

8月18日生まれ。山梨県出身。XXXX年 Make-Up Designory (ロサンゼルス) 卒業。美容の技術を習得しながら和装、洋装、ブライダルヘアメイク、着付け全般の技能を取得。同時期に日本礼道古流作法小笠原流師範取得。

山梨県で美容師としてスタート。20代で横浜の経営コンサルタントの会社にヘッドハンティングされ入社する。ビジネスマナー、接客マナーのインストラクターとして全国規模でセミナーを開催。斬新なサロン経営手法が脚光を浴び、マスコミに取り上げられる。フランス・パリのヴァンクリーフ、カルティエ、シャネルなどのジュエリーデザイナーとのコラボレーションにより、オリジナルアクセサリーの企画立案、営業、販売を手がける。サロン経営とともに、桂由美の全日本ブライダル協会においてウェディングプランナーのライセンスを取得。ヘアメイクのプロ集団「ヘアメイク KIYOMI」主宰として活躍。藤原紀香・益若つばさ・阿部カ・安藤美姫・道端アンジェリカ、その他多数の芸能人を担当。パリコレクションなどの海外コレクションやミスユニバースのヘアメイクを数多く経験。

また、マイケルジャクソンの「スリラー」のヘアメイクで知られる徳永優子氏を師事し、エミー賞レッドカーペットを徳永氏と共に踏み、アメリカのテレビ業界関係者との交流も深める。

2003年株式会社マリエの共同経営者となる長谷川秀二との結婚により名古屋に拠点を移す。桂由美の一般社団法人全日本ブライダル協会においてウェディングプランナーのライセンスを取得。

現在、美容師はサロンワークかウェディングのどちらかしかできないということが当たり前になり、一生の仕事を思っていた美容師が年齢が高くなると独立以外に自立できなくなっていることに強い危機感を感じ、本来の美容師の姿であるサロンワークも冠婚葬祭もプロフェッショナルとなる美容師の育成に奮闘している。



## 資格:

美容の技術をはじめ、和装、洋装、ブライダルヘアメイク、着付け全般の技能を取得。日本礼道古流作法小笠原流師範取得など多数取得。

## 目標としている言葉:

時間美・空間美・仕事美、それは人生美である

## 趣味:

映画鑑賞

## インスタグラム:

mariekiyomi フォロワー数約1万人

書籍:「結婚式から生まれるしあわせ~ブライズルームは聖域~」2020年7月出版



人生の師と仰ぐ桂由美と長谷川(左)



コレクションの様子



パリコレクションにて

## ■ 人生のターニングポイント

### 弟の病死と美容への道

学生時代、長谷川清美は将来を医療の道に進むことを考えていたが、高校1年生の時に当時13歳の弟の病死と直面する。進路に迷い始めた中で、理容業界で働いていた両親から「一人でも生きていけるように手に職をつけなさい、そして女性も社長になれる」という言葉を受け、ここから美容人生がスタートした。上記のエピソードは、常に長谷川にとって様々な困難があっても立ち向かえる強い心の支えになっている。

### 美容師から美容の経営コンサルタントへ

山梨で美容人生がスタート。美容としての基礎や生きざまを学び、美容技術を習得していくが、長谷川は自分自身のなかで「このままでいいのか」と葛藤を抱えながら過ごしていた。25歳の時、偶然に長谷川が働く美容室において経営コンサルの仕事を見て「自分がやりたいことはこれだ」「美容師ではなく、人に教える側にいきたい」と強い思いを持つ。その後27歳で美容室を退社し、美容コンサルティング会社に入社し、経営者の側で仕事の取り組み方、人に役立つ人生、生き方を学ぶ。クライアントからの評価も高く社内でもトップコンサルタントとして活躍。

### 桂由美との出会いで「ブライダルは美容師だからこそできる仕事だと直感」

35歳の頃、コンサルティング会社の経営層が変わったことを機に退職。マリエの共同経営者となる長谷川秀二との結婚により名古屋に拠点を移す。マリエの前身となる会社で美容師の離職率の高さを目のあたりにして業界への危機感を感じた矢先、偶然に「桂由美 一般社団法人全日本ブライダル協会セミナー」の記事を見つけ直感で参加を決める。セミナーを通じてブライダルという新しい世界に刺激を受ける。冠婚葬祭やブライダルの舞台があることで七五三や成人式、結婚式から最期のときまで人生の節目に携われることが可能となり、美容師が全ての技術を身に付けることで生涯を通じて活躍できると確信する。その後、長谷川は美容師経験も生かせるウェディングプランナーでは、美容師とは別もののような印象でウェディングプランナーは新婦の一番近くにいる人で、メイクアップから着付、マナーまで全てがわかる美容師が演出することが必要と捉え、ウェディングプランナーは自分自身の運命と感じ、日本におけるウェディングプランナーの第一人者である阿部トシ子や桂由美の元で様々なライセンスを取得。「まずは自社から変える」と決心し、マリエでブライダル事業部を立ち上げた。

## ■ 女性経営者としてのエピソード

### 結婚のタイミングで、1億円近い借金からのスタート

2003年、マリエの共同経営者となる夫 長谷川秀二との結婚を機に「美容業界を変えたい」「マリエから変える」と覚悟を決めた。しかし、当時、不動産業を営んでいた長谷川秀二の父と兄が詐欺にあい事業の整理をおこなっていた。その対象として兄が所有していたビル(このビルを使用し美容室を運営していた)が競売物件のひとつとなっていた。長谷川は「自社ビルとして残したい」という強い気持ちがあり、自身の前職での年俸1800万円の所得証明を使って3回目の競売で落とすことができ、自社ビルとして守ることができた。結果、結婚を機に自らの貯金はなくなり、億近い借金を抱えたところからマリエの業界再編のスタートを切った。

### 経済産業省の経営革新計画 サービス事業分野で認定を受ける

長谷川はマリエのブライダル事業部立ち上げを機に、「生涯美容」と「お客様のすべての節目に寄り添う」ことを企業理念に掲げ、約15年をかけて一生働ける環境づくり・組織づくり・美容師教育に注力。いち早く定年退職制度の廃止をおこなった。この企業方針は業界内外から高く評価を受け、2016年には経済産業省の経営革新計画 サービス事業分野(2017年度補正ものづくり・商業・サービス新展開支援)で認定をもらう。

## ■ 今後の事業への想い「日本の伝統文化の継承」美容業界を変えるフェーズへ

長谷川が「生涯美容」に注力する理由は、「美容師の活躍の場の構築」だけでなく「日本の伝統文化の継承」への想いもある。着物は日本の伝統文化であり、冠婚葬祭文化と深くつながっている。現場の美容師が冠婚葬祭でのヘアメイクから着付けまでの専門技術や婚礼の歴史を受け継ぐことで次世代に日本の文化を継承し守ることができると考えている。今後、マリエは長谷川を中心に美容師教育に注力していく。ゆくゆくは美容師向けのスクール事業を展開予定。直近での取り組みでは、社内だけでなく、現役の美容師から次世代を担う美容専門学校に通う学生など社外にも広げて「生涯美容の生き方」のセミナーを実施したり、YouTubeなどで広く発信している。



## 新たに開発した商品も

開発研究を重ね、誕生した自社商品も多数。

### 〈花帯・花振〉

開発1年以上。着物の美しさをより美しく、さらに個性ある華やかさを演出。花帯を彩る美しい花は、婚礼を手掛けているプロのフローリストが制作。「こだわりの造花」使用。また、重さなどで負担をかけない。花だけが目立っては違和感がある。着物、帯、花、全体のバランス、徹底的なこだわりも。デザインの究極のバランスを実現。実用新案取得。



### 〈KIYOMI シャンプー・トリートメント〉

美容師をはじめ手荒れで悩む人に向けて開発し2003年から発売。18年で3万本販売した商品。髪と地肌のエイジングケアを考へて2021年8月に新パッケージデザインでリニューアル発売。



## 「一生美容に携われる会社」株式会社マリエについて

美容室経営、ブライダルヘアメイク、ブライダルプロデュース、海外挙式、ドレスコーディネート、エステティック、ネイル、アイラッシュ、美容関連商品販売を運営。その他、卒業式年間1000件以上、成人式800件以上、海外コレクションのバックヤード、ミスユニバースヘアメイクなど活動の幅は多岐に渡る。「一生美容に携われる会社」を目指し、様々なフィールドで活動。



所在地:愛知県名古屋市中区金山4-1-9 4F

店舗数7店舗

スタッフ数:60名

公式サイト: <https://marieplus.jp/>

## メディア掲載実績

フジテレビ、日本テレビ、テレビ朝日などのテレビ業界のみならず、産経新聞やイギリスBBC放送からまでも取材を受け、長谷川清美自らがテレビ出演。

テレビ出演: 日本テレビ「NNNきょうの出来事」、関西テレビ「ノックは無用!」、テレビ愛知「データで解析! サンデージャーナル」、名古屋テレビ「反転の光」等

## 取材可能事項

- ・業理念及び事業戦略について
- ・沿革、今後の戦略等について
- ・美容経営で工夫していること／苦労したこと ・自社製品の商品開発事業について
- ・人材育成、女性の働き方に対する考え 美容業界にまつわる市場動向
- ・恋愛、結婚、美容にまつわるコメント提供

その他ご希望に合わせてアレンジ可能です。

【取材・報道関係者様からのお問い合わせ先】

マリエ 広報事務局

担当:長谷川 (090-4237-3308)

E-mail: [info@marieplus.co.jp](mailto:info@marieplus.co.jp) TEL: 052-253-8004

FAX: 052-253-5906